## プレゼン[資料 A]

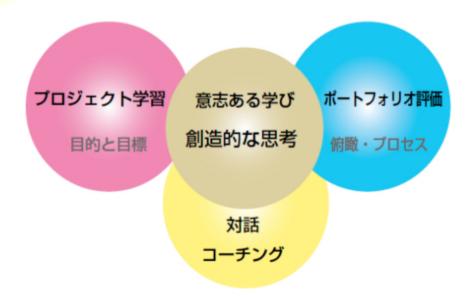
# AI 時代の教育・・Co-Creation(共創)

次世代プロジェクト学習・ポートフォリオ・対話コーチング

#### 鈴木 敏恵 (未来教育クリエイター・一級建築士)

国立大学法人北海道教育大学 [教職論 PBL]特別講師 s-toshie@ca2.so-net.ne.jp

#### 意志ある学び一未来教育





出典:『DX とポートフォリオで未来教育』

著者:鈴木敏恵

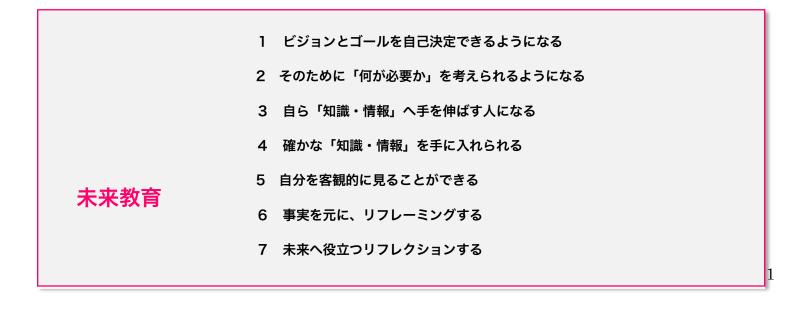
出典:『AI 時代の教育と評価』

著者:鈴木敏恵



# 1 教育 DX - 与えられた学びから、意志ある学びへ

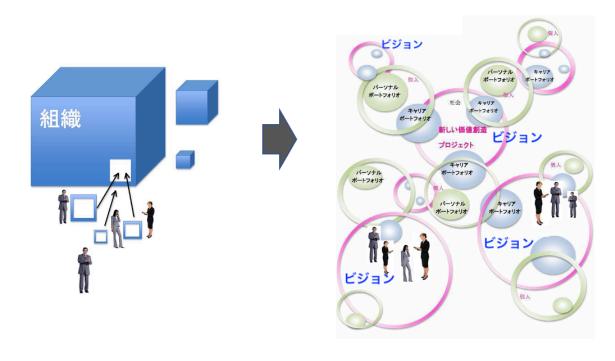
	教育の手段	T teacher	S student	教育の成果
コンピュータでもできる教育	コマンド 過去	このリンゴを食べなさい。	S (tivo	従順性
る教育 DX 前	ティーチング 現在	リンゴは ○○○なんだよ。	わかりました。	ーーーコンビュータでもできる ーーー 知識・理解
DX 後 人間にしかできない教育 project portfol	未来 コーチング 対話・愛 based learning	何のために? 知	リアル+ウェブ [知の果樹園] (知の果樹園) (私のビジョンは 〇〇だから・・・ 意志	人間にしかできない 創造的な思考   □ビジョンカ(未来を描く力)   □現実から情報を獲得するカ   □現実から課題を見出すカ   □目標を設定するカ   □クリティカルシンキング   □俯瞰(全体を広く見渡す)カ   □エビデンスをもった課題解決   □思考力・判断力・表現力



# **2** DX で進化する[社会・教育]

## 図 2-1 DX で変化する社会・・「組織中心」から「人間中心」へ

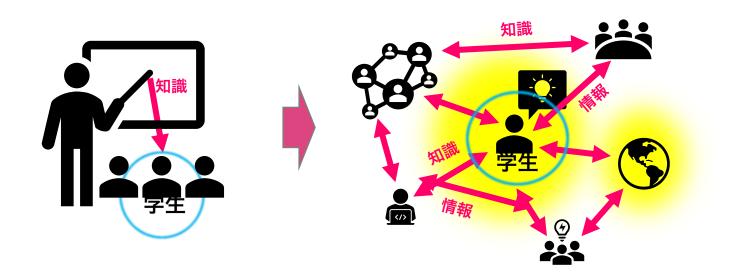
「みんな揃って組織に入る」から「同じビジョンの人々が集まりプロジェクトで生み出す」へ 固体の時代から気体の時代へ



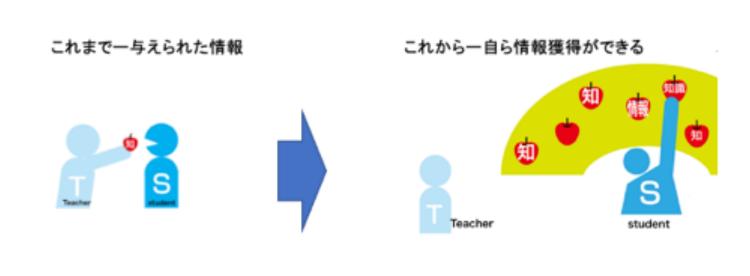
## 図 2-2 DX で進化する教育・・時空を超えつながる「知」

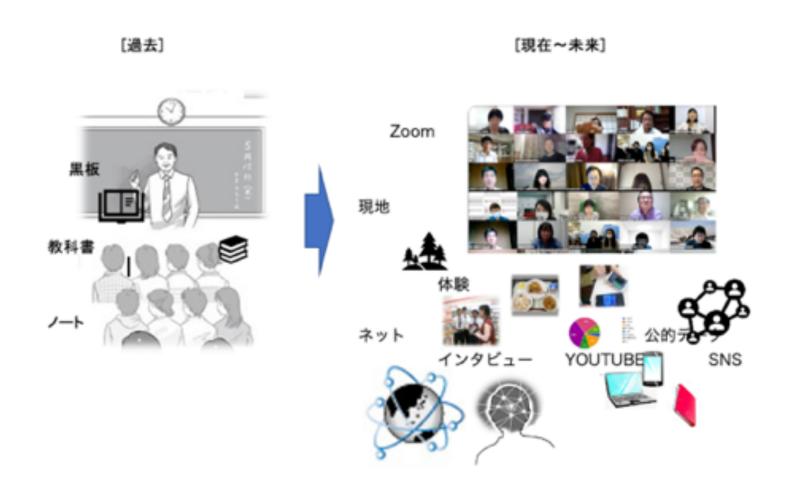
過去(DX前)

現在一未来(DX後)



# <mark>2</mark> DX で変化する [教育]





## 3 プロジェクト学習 (Project Based Learning) とは

プロジェクト学習とは、プロジェクトベースで向かう学び(Project Based Learning) Proとは前方に、jectとは描くという意味

Project Based Learning とは、ビジョンやゴールを未来へ描き、そこへ向かう学びよき未来へ「何のために(目的)、何をやり遂げたいのか(目標)」を胸に進める学び



## 何のために(目的)、何をやり遂げたいのか(目標)



#### プロジェクト・・3つの特徴

- □ ビジョンとゴールが明確
- □ 現実から情報を獲得する
- □ 新たな価値を生み出す

#### プロジェクトとは夢を実現すること

- □ 現実をよりよく変える
- □ 価値ある何かを生みあげる
- □ ミッションを胸に未来へ向かう

# **4** プロジェクト学習とポートフォリオの関係

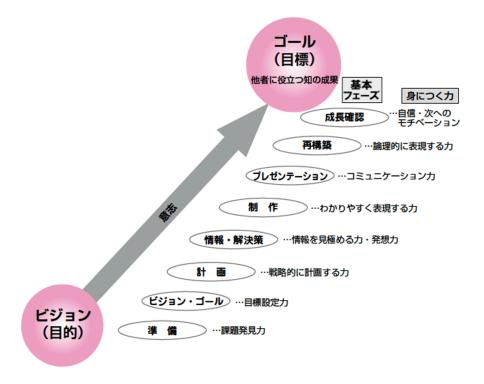
ゴールへ向かうプロセスで手に入れた知識、情報、アイディアをポートフォリオに一元化します。



# 5 プロジェクト学習の[フェーズ]で[身につく力]

- ・プロジェクトにはゴールへ向かう基本的なフェーズがあります。
- ・フェーズごとに身につく力があります。

## 図 5-1 プロジェクト学習の基本フェーズ



	プロジェクト学習で「身につくカ」
準備	□課題発見力 □気づくカ □観察するカ □状況をつかむカ □現実から問題を見出すカ □社会意識 □俯瞰するカ
ビジョンゴール	□目標を設定するカ □ありたい状態/ビジョンを描くカ □現実に主体的にかかわるカ □やりとげる意志 □前向きな姿勢
計画	□すべきことをイメージするカ □優先順位を決めるカ □時間を的確に配分するカ □戦略的に計画するカ
情報·解決策	□根拠ある情報を獲得するカ □情報を見極めるカ □分析するカ □比較するカ □分類するカ □礼儀・礼節 □多面的にものを見るカ □目の前の事態に対応するカ
制作	□わかりやすく表現するカ □情報を取捨選択するカ □図、表、グラフを適切に使うカ □概念図等を使い端的で簡潔に表現するカ
プレゼン	□コミュニケーションカ □ノンバーバルな表現カ □比喩等でわかりやすく表現するカ □根拠をもとに説明するカ □聞き手の思いや理解を推察して話すカ □他者のプレゼンを評価するカ □他者のプレゼンから学びとるカ
再構築	□論理的に表現するカ □根拠に基づいて結論を導くカ □適切に項目立てし、見出しを立てるカ □的確で簡潔な文章を書くカ □試行錯誤しつつよりよいものを生み出そ うとする姿勢
成長確認	□成長や成果を評価するカ □自己有用感 □自尊感情 □より成長しようとする意欲

## 6

# プロジェクト学習のフェーズ展開と活動

次世代プロジェクト学習モデル						
フェーズ	活動		身につく力(普遍的な力)			
準備	目の前の現実や状法 題を発見する。基本 得する。ネットだい 地へ行く、人と会・ 須。	本情報を獲 □□ けでなく現 □□	現実直視·気づく力 現実を俯瞰して、総合的にとらえる力 はじめて出会う人とのコミュニケーション力			
ビジョン・ ゴール	プロジェクトのビ き、ゴールを明確し ご課題意識でチー 話し合い、チームの める、チームビルラ	にする。同 ム結成し、 の目標を決	目標設定力 具体的な「目標」を決定できる力 チャレンジ心			
計画	目標達成のために、 すべきことを考え、 計画を立てる。チー 資質、能力を活かす	戦略的な □ □	すべきことを自ら考え出せる計画力 優先すべきことを決定できる力			
情報・	現場へ行く。専門%に話を聞く。 事実、事例などを得発力豊かに、課題	日本で企画力・ 国解決を考	状況判断・洞察力 根拠ある情報、新鮮な情報を獲得する力 さまざまな事態における臨機応変な対応力			
解決策	ż š 。		企画力・発想力 「具体的な課題解決」を考え出せる力 「独創的なアイデア」を考え出せる力			
制作	プレゼンテーション るものを制作する ティーのため現物を	。リアリ	独自のアイデアをユニークに表現できる			
プレゼンテーション	プレゼンター同士?で改善。その後、1プロジェクト対象:レゼンする。	地域社会や  者へ公開プ	プレゼンター (提案者)へ役立つリターンができる			
再構築	プレゼン時のリ を活かし、知の る。プロジェク 果物 (提案集) を	再構築をす □ □	知を再構築する力 他者に役立つ「知の成果物」を生める力 論理的な表現力 改善力			
成長確認	成長を自覚し、 る力とする。自2 考えキャリアビ いてみる。	分の資質を	成長の自覚 自尊感情・自信 キャリアビジョン 達成感 自分の資質・能力の見出し			

## 7 ポートフォリオの基本

#### ■ポートフォリオとは

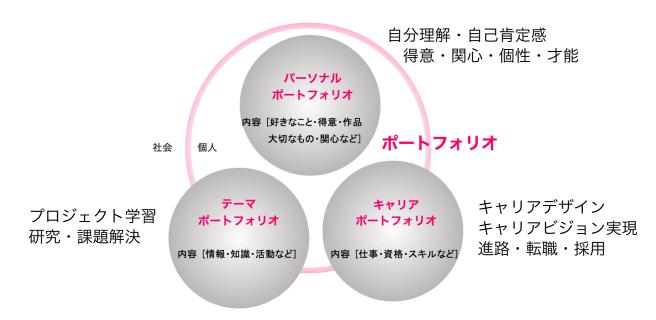
ポートフォリオとは、これまでの作品「活動歴」「実績歴」などをファイルしたもの。紙ばさみや建築家などがもっている作品集ファイルを意味する。バラバラの情報を一元化するもの。

その人自身の意志で自分(自身や経験など)が伝わるものを一元化したファイル。自分が作ったもの、自分を作った ものこれまでの作品・成果・経験を一元化したもの。学習や仕事のプロセス全体が俯瞰して見えるファイル。

#### ■ポートフォリオの価値

- 1 「目標」や「成果」や「評価」を明確にする
- 2 結果だけでなく「プロセス」の評価ができる
- 3 数値化できないその人の個性。能力、才能など唯一性が見える

## ■ポートフォリオの包括概念



#### ■ ポートフォリオの条件

- ・ビジョン・ゴールの存在
- ・根拠あるものを入れる(出典・年月・場所などがわかるように)
- アイディア(メモ・スケッチ・下書き)も入れる
- ・時系列に入れる・潤沢な中身であること



「知識」と「情報」を照らし合わせて考える

現実から情報を獲得し・・

## ポートフォリオで「考える力」を高める

#### ポートフォリオで「知識」と「現実」を結びつける

考えるとは・・頭の中の知識と知識を「関連」づけたり、「関係」



リモートで、指導者は、いつでもポートフォリオを見ることができる

「その情報、いいね!」「そのメモ、すごく大事だよ」 「知識と今日の情報を関連づけているね、すごくいい考えね!」

「目標からズレているのでは?・・」

などとタイムリーに声を掛ける…デジタル空間へ対話的なコメントを書き込むことでもいい



# 9 ポートフォリオで「思考プロセス」を追う

[1] 着眼点•試行錯誤

[2] 鮮度と確かさ

## ポートフォリオ見方の極意

□ 判断に迷っているメモ □ 何度も出てくる言葉

<ul><li>□ 最新の情報か?</li><li>□ 根拠に基づいた情報か?</li></ul>
[3] 絵巻物のように・・時の流れで見る  □ 学習者の「思考プロセス」を追う  □ 刻々と変化している物事への受け止め
<ul><li>[4] 照らし合わせて見る</li><li>□ ビジョンとゴールと照らし合わせて見る</li><li>□ 「知識」と「現実」を結びつけているか</li></ul>
6 [ ポートフォリオの見方‥7手順 ]
<ul> <li>最初に必ずビジョンとゴールを見る この学習者は「何のために(目的)、何をやり遂げたいのか (目標)」を把握する</li> <li>よ</li> <li>ご その目標のために「何が必要かわかっているか?」を見る『工程表*』にそれを獲得する予定がメモされているか?</li> </ul>
③ その目的や目標のために必要な情報や知識が入っているか?目標のために"絶対に必要"なものが入っているか? ↓
④ 情報への冷静さ=クリティカルシンキング
ポートフォリオに入れてある情報は最新か?
確かな情報か?普遍的か?偏向していないかを見る
↓ ⑤ ポートフォリオの中身に対し客観的に自分の考えや行動を見ていることがわかるメモなどが添えられている「これでいいのか?」など。考えられる限りの可能性のある方法を考えているメモなど ↓ ⑥ ポートフォリオの中のデータや事実を多面的、多角的に見て考えていることがわかるメモなどあるか?

## 10 ポートフォリオ 20 の価値

#### ポートフォリオ-20の価値

- ① 全体を「再構築」して知の成果を生み出す
- ② 根拠あるリフレクションができる
- ③ 目標到達への「プロセス」を見ることができる
- ④ クオリティーの高い目標達成ができる
- ⑤ エビデンスのある「対話」ができる
- ⑥ 考えや感情、行動、意識を健在化できる
- ⑦ 知識や感動、経験を共有することができる
- ⑧ 価値化する = インパクトシーンを選択できる
- ⑨知識と情報の「関連付け」ができる
- ⑩ 才能・個性・資源を見いだすことができる
- ⑪ 知識・スキルの習得状況が見える
- ⑩ 知識・スキルの積み重ね・進化が見える
- ③ 思考、判断、表現力が身につく
- ⑭ ストーリー (文脈) で表現する力が身につく
- ⑤ ストーリー(文脈)で捉える力が身につく
- ⑥ 目標と成果を照らし合わせて評価することができる
- ⑰ 自己理解 (メタ認知・キャリアビジョン・未来デザイン)
- ⑱ 他者理解 (面談・採用面接・進路アドバイス)・キャリア継続支援
- ⑲ フィードバックしつつゴールへ向かうことができる
- 20 他者との共感・共有でつながれる

## 11 ポートフォリオを「未来」へ活かす

ポートフォリオ(Portfolio)は、建築家やデザイナーなどの作品集を意味します。

これまでやってきたことや自分のセンスや個性がわかるものファイルにして未来のために活かします。

#### 【作り方】

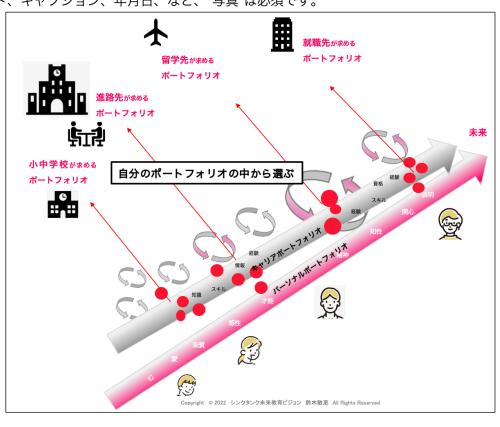
- ・ファイルを用意する→リアルでもデジタルでも Web でも ok
- ・素材を集める→写真、映像、気に入った文章など気になったらとにかく入れてみる。
- ・コツ→「自分をほめながら集める」。「よく頑張った!」「このときは楽しかった!」とやってきたことを楽しく。

#### 【こんなものを入れてみよう!】

- ①自分の「願い」「得意なこと」「好きなもの」「関心があるもの」に関するもの。もらった嬉しいメッセージ etc.
- ②自分の「願い」「目標」「目指していること」を描いて最初にいれる
- ③自分のこれまでやってきたこと(研究、読書歴、ボランティア歴 etc.)
- ④今の自分をつくったもの(読書歴、習い事の記録、講習会、学会など、関する領収書など etc.)ガクイチ
- ⑤自分がつくったもの(作品、料理、レシピ、写真、絵、イラスト etc.)
- ⑥自分がこれまで手にいれてきたもの(表彰状、寄せ書き色紙、学んだこと、嬉しかった手紙、ぼろぼろになったノートなど)
- \*その時のエピソード、キャプション、年月日、など、"写真"は必須です。

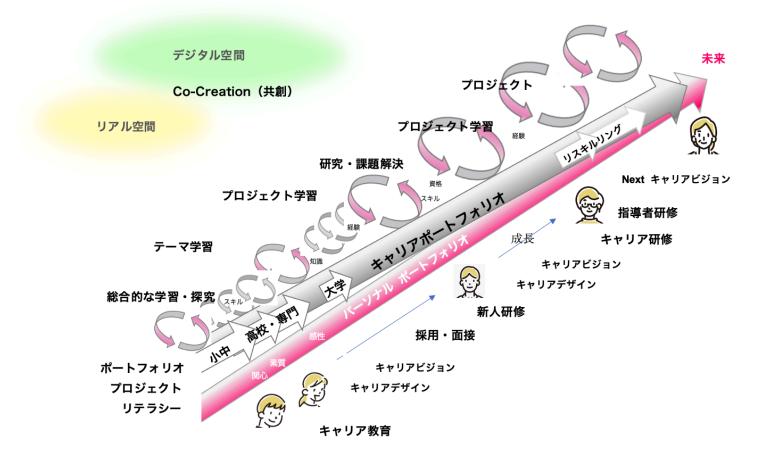
#### 作るときに気をつけること

- ①入れるものには必ず「日付」「場所」を添える
- ②前から順番に「時系列」で入れていく (「自分年表」のイメージ!)
- ③写真や資料には「その時の気持ち」や「そこにいたる過程、物語」を添えてお く

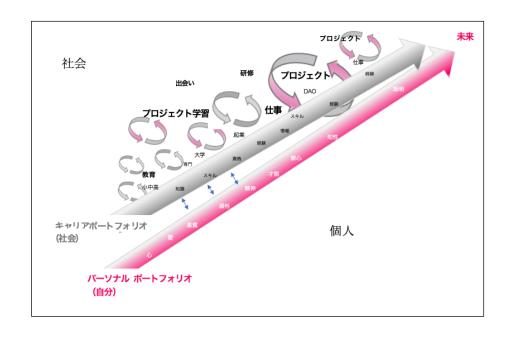


## **12** ポートフォリオは一生もの

#### 図 10-1 ポートフォリオにプロジェクトの成果や学びを入れ、未来ヘキャリアデザイン



#### 図 10-2 パーソナルポートフォリオとキャリアポートフォリオの関係



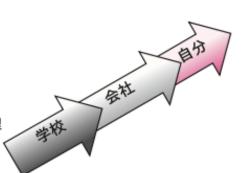
## <mark>I3</mark> ポートフォリオで自ら学びをデザインする時代

## 一人ひとりがポートフォリオを持つ時代

## DX時代…自ら学びをデザインして生きる

#### これまで(DX前)

- ・学校や勤務先が「学びのデザイン」 をする。同じ教室で一斉に受ける
- ・学びの軌跡は…学校や所属先が管理
- ・退職後、はじめて自分で自分の学びをデザイン、管理することになる

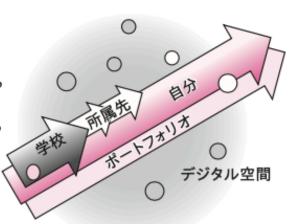




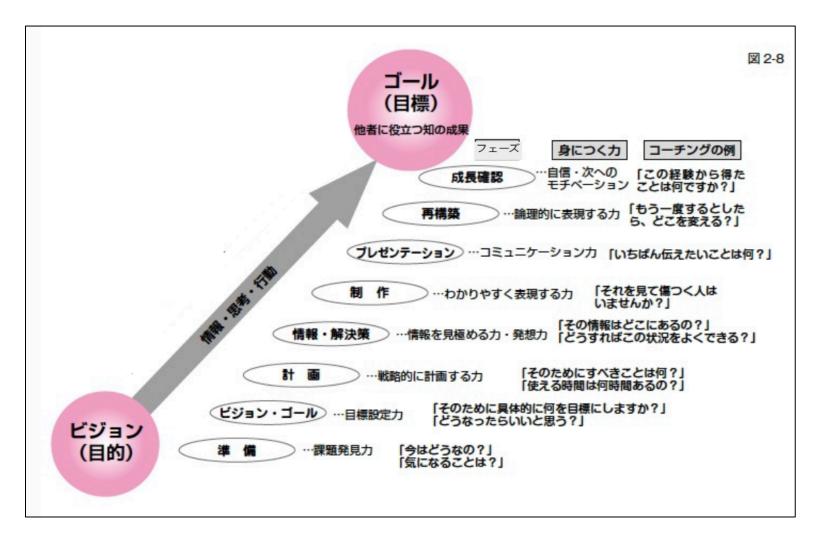
与えられた学びから、意志ある学びへ

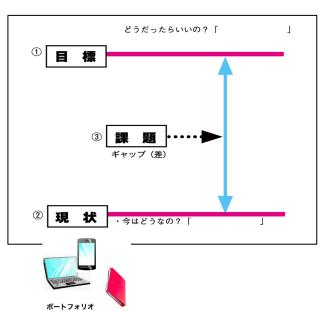
## これから(DX後)

- デジタル空間に満ちた知識や情報で一人ひとり自らの学びをデザインする
- 学びはポートフォリオで自己管理する
- ・学びの主体は「自分」という意識が はじめからある
- ・学校教育の中で学びの楽しさを得て、 「自分」で生涯ワクワクと学び、 デザインすることを身につける。



## **14** ポートフォリオを活かす「対話コーチング」





## [思考力 判断力 表現力]の対話コーチング

● 思考 現状・状況・・・・「今はどうなの?」

鈴木 敏恵

ありたい状態・・「どうだったらいいの?」

● 判断 決め手 · · · · 「いちばん大事なことは何?」

押さえ・・・・「何と何を比べたの?」

● 表現 目的 ……「何(誰)のためにするの?」

効果 ・・・・ 「それで何を変えたいの?」

Copyright © 2022 シンクタンク未来教育ビジョン 鈴木敏恵 All Rights Reserved

## **15** ポートフォリオで「知の再構築」

**■ 課題解決:ビジョンを叶える提案「知の再構築」** 



# 16 ポートフォリオ・プロジェクト学習が活きるシーン

# 図40:自分でつくる「学びデザイン」 p門研究 youtube 市民講座 が情報講座 資格取得 デンライン講座 プトフォリオ Copyright © 2022 シンクタンク未来教育ビジョン 鈴木敏恵 All Rights Reserved

#### 生きることは学ぶこと

